



# I'm**POSSIBLE**

**LEARN. ENGAGE. INCLUDE.**

## 1-2

「**勇気**」「**強い意志**」「**インスピレーション**」  
について考えてみよう！

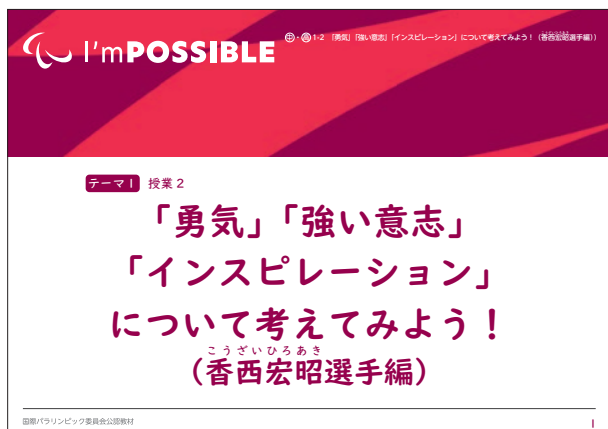
こうざいひろあき  
(**香西宏昭選手編**)

**教師用 授業ガイド**

**(中学生・高校生版)**

- 授業の展開に沿って、【指導・声かけ例】【+アルファ情報】を掲載しています。
- 【+アルファ情報】は、すべて伝えなければならない情報ではありません。興味・関心を引き出すために、クラスのそれまでの学習経験なども踏まえてご活用ください。
- 一方的に教師が話すのではなく、生徒の既習事項などと絡め、生徒に考えさせるような展開にしましょう。

(教材の内容は、2022年6月1日現在の情報をもとにしています。)



#### 【指導・声かけ例】

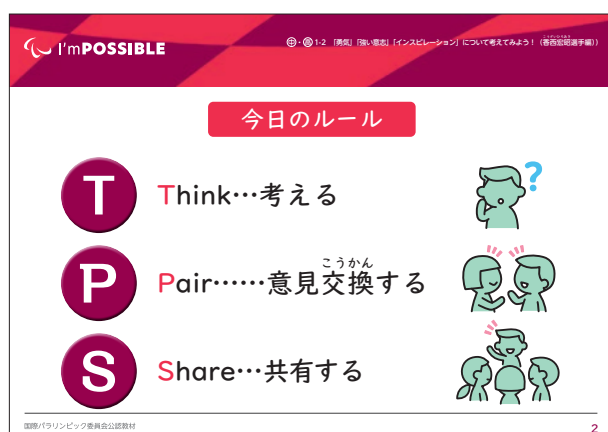
- ・香西選手を紹介する映像を見せる前に、「パラリンピアンって何だろう?」「香西選手は何のスポーツをしているのかな?」など、知っている人がいるかを聞いてみる。
- ・パラリンピアンとは、パラリンピック出場経験者のみを指す（パラアスリートとは、パラリンピック出場の有無にかかわらず、競技スポーツに参加している障害のある全てのアスリートを指す）。
- ・パラリンピックの価値（「勇気」、「強い意志」、「公平」、「インスピレーション」）について理解する授業であるが、この授業では、特に「勇気」「強い意志」「インスピレーション」に焦点を当てる。

パラリンピックの様子を伝えるため、最初に映像資料③（Tokyo 2020's Most Emotional Moments）を見せてもよい。

#### ＋アルファ情報

##### 【車いすバスケットボール】

下肢に障害のある選手が車いすに乗って戦うバスケットボール。1960年のローマでのパラリンピック第1回大会から実施競技となっており、障害者スポーツの中でも世界的に知名度、人気ともに高いスポーツである。コートの大ささ、リングの高さ、使用するボールなどは一般のバスケットボールと同じである。



#### 【指導・声かけ例】

##### 【T・P・Sの実践】

本授業ではアクティブ・ラーニングの1つの手法として、T・P・Sによるディスカッションを活用したアウトプット型の学習スタイルを採用している。一方的な授業で知識を伝達するインプット型の学習ではなく、個人で考えた（Think）後に、隣同士での意見交換（Pair）やグループ、クラスでの意見の共有（Share）を通して、与えられたテーマについて能動的に意見を持ち、パラリンピックの価値の理解を深めていく。

#### ＋アルファ情報

##### 【アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）】

一方的な講義形式の教育とは異なる、生徒の主体的で対話的な学習法。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれ、手法としてはグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワークなどがある。本教材の授業シートには、「T」「P」「S」のマークが付けられており、各シーンで生徒が一人で考えるのか、隣の人と意見交換するのか、グループやクラスで発表するのかがわかるようになっている。

**I'mPOSSIBLE** ① ② 1-2 「障害」「障い」「障い」「インスクリプション」について考えてみよう！ (香西宏昭選手編)

こうざいひろあき

**▶ P** 香西宏昭選手の映像を見て、  
感じたことを発表しよう！



国際パラリンピック委員会公認教材

【指導・声かけ例】

- ・映像を見終わった後に、数人の生徒に感想を発表させる。
- ※教師は、クラスのバスケットボール経験者にスリーポイントシュートの難しさを発表させ、車いすからのシュートがいかに難しいかを伝えるなどの工夫をする。
- ※右の**＋アルファ情報**の内容を伝えて、車いすバスケットボールへの興味を喚起してもよい。
- ※障害に関するネガティブなコメント（「かわいそう」など）に対しては、生徒の意見を尊重した上でポジティブなコメントを必ず紹介し、力強さや素晴らしさ、スポーツとしての面白さにも着目するように促す。

＋アルファ情報

【車いすバスケットボールの特別なルールの例】

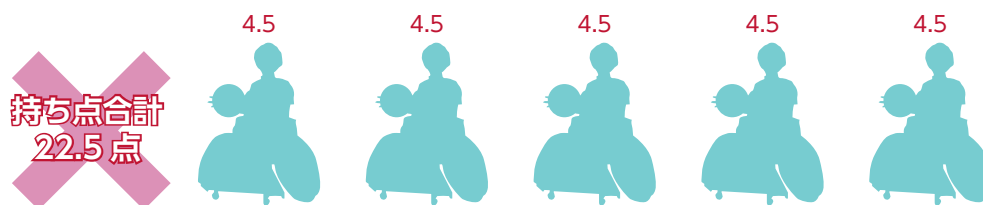
- ・バスケットボールではボールを保持した状態で3歩以上歩くとトラベリングの反則となる。車いすバスケットボールの場合はボールを保持して車いすを3回連続でこぐ（プッシュする）とトラベリングとなる（片手でこいでも1回のプッシュとなる）。トラベリングにならないためには、2プッシュ以内につき1ドリブルをしなければならない。
- ・車いすバスケットボールにはダブルドリブルのルールはない。
- ・基本的には選手同士の激しい接触が禁止されており、相手を押したり、たたいたり、つかんだりするとファールになる。車いすも体の一部と見なされるため、相手の車いすをつかむとファールとなる。
- ・試合中に車いすが転倒した場合は、自力で起き上がらなければならない。起き上がることができない場合は審判の判断で試合が中断され、スタッフや選手が起き上がりをサポートする。ボールを持ったまま転倒するとバイオレーション（反則）とみなされ、相手チームのスローインになる。

＋アルファ情報

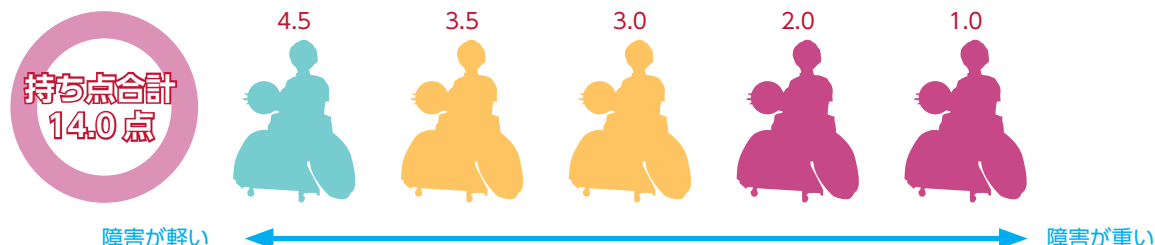
【車いすバスケットボールのチーム編成】


- ・1チームは最大12名で構成され、コート上には5名が出場する。
- ・各選手には障害の程度によって、1.0点から0.5点きざみで4.5点までの持ち点が設定され、障害が軽いほど点数が高く、重いほど点数が低くなる。
- ・障害の軽い選手のみでチームが組めないように、コート上の5名の合計点は14.0点以内と決められている。これにより、障害によるチーム間の不公平さを最小限にし、障害の軽い選手だけでなく重い選手にも出場機会が生まれる。

〈障害の軽い選手だけを集めたチームの例〉



〈出場が認められたチームの例〉



 ① ② 1-2 「勇気」「思い」「インスピレーション」について考えてみよう！ (香西宏昭選手編)

こうざいひろあき

**T S** 香西宏昭選手の資料を読もう。

- 「**すごい**」・「**大変そう**」と思うことに線を引こう。
- 自分がインスピレーションを受けたこと (心を揺さぶられたことや、刺激を受けたこと) を書こう。

国際パラリンピック委員会立国教材

—【指導・声かけ例】—

- ・資料に下線を引かせる際、生徒自身が読み返したときに「すごいと思ったところ」と「大変そうだったところ」が一目でわかるように、2色で区別させるとよい。
- ・生徒から出てきた発表を、「すごいと思ったところ」と「大変そうだったところ」に分けて板書すると整理しやすい。
- ・「インスピレーションを受けたこと」が想像できない生徒には、「まねしたいこと」、「見習いたいこと」「感じたこと」などに言い換えてもよい。

＋アルファ情報

【香西宏昭選手補足資料】

○小学生時代

- ・香西選手は普通校に通っていた。野球（ハンドベースボール）は足元が悪いときは、代走が出てくれた。守備はあまり動かなくてよいファーストやキャッチャー。
- ・ドッジボールでは車いすに当たったら無効というルールではあったが、ボールを投げるのも取るのも得意だったので、強かった。

○中学生時代

- ・中学生になると、友達が部活に入り、遊べなくなりややさびしくなった。同時に、車いすバスケットボールに取り組むようになった。チームには入っていたものの、同世代と競う経験ができないことを気遣った当時の千葉のチームの選手（東京 2020 パラリンピック日本代表監督）は、大学リーグのあるアメリカへの留学を強く勧めた（日本には車いすバスケットボールの大学リーグはなかった）。
- ・2001 年のマイク・フログリー氏との出会いは、この年初めて行われた全国キャンプにて。フログリーコーチの練習は一見楽しいが、ハードな要素があり、とても身になった。

○渡米

- ・アメリカ人は我が強く、自己主張が激しい人ばかりではないかななどの思い込みもあったが、実際は、言葉がわからなくても食事に誘ってくれるなどとても優しくった。人から聞いた話を信じるのではなく、自分で確認するべきだと思った。
- ・当時は、イリノイ大学の練習生として、練習に参加しながら、大学編入のために近くのカレッジに通っていた。朝練→授業→昼の筋トレ→授業→授業の課題への取り組みと、英語で過ごす時間はとても長い。イリノイ大学生になるまでに、2年半もかかってしまったという気持ちはある。
- ・車いすバスケットボールもイリノイ大学編入前は練習生扱いなので、試合には出られず、試合に勝っても負けてもくやしい気持ちだった。初めて試合のユニフォームを着た時は、本当に嬉しかった。
- ・アメリカでは法整備のもと、障害者の差別禁止、及び障害者が他者と同じくアメリカでの生活を営むことができる機会が保障されている。日本は障害者権利条約を締結し、障害者基本法の改正など法整備は進んだが、障害を理由とする差別解消には至っていない。2021 年民間事業者においても[合理的配慮]は法的義務化された。罰則規定はないものの、社会の認知や理解の変化を促し、様々な[見えない壁]を見直す機会となるよう期待される。

I'mPOSSIBLE ①・② 1-2 「勇気」「強い意志」「インスピレーション」について考えてみよう！ (香西選手編)

**目 香西選手にとっていちばん大切な目標**

もっとうまくなること  
世界で認められる選手になること

マイク・フログリーコーチの  
指導が必要

しかし、ハードルの存在！


国際パラリンピック委員会公認教材 5

【指導・声かけ例】

- ・「香西選手にとっていちばん大切な目標」と目標達成のためにはハードルがあったことを確認する。

I'mPOSSIBLE ①・② 1-2 「勇気」「強い意志」「インスピレーション」について考えてみよう！ (香西選手編)

こうざい  
**香西選手にとってのハードル**



- ・アメリカの大学への入学
- ・アメリカでの一人暮らし
- ・入学後の学業成績維持

国際パラリンピック委員会公認教材 6

【指導・声かけ例】


- ・香西選手にとって、乗り越えなければならなかったハードルとは何かを確認する（特に、イリノイ大学でバスケットボールを続けるには英語での授業についていき、単位を取る必要があったことを生徒に理解させたい）。

I'mPOSSIBLE ①・② 1-2 「勇気」「強い意志」「インスピレーション」について考えてみよう！ (香西選手編)

**ハードルを乗り越えて目標達成**

- ・日々の英語の勉強
- ・日々のトレーニング

2年連続で年間 MVP を獲得  
イリノイ大学を卒業  
ドイツでプロ選手になる



国際パラリンピック委員会公認教材 7

【指導・声かけ例】

- ・香西選手は「学業が中途半端だとバスケットボールも中途半端になる」「一歩ずつ確実にステップを登ることが大切」というマイク・フログリーコーチの言葉を信じ、地道な努力を続け、勉強とバスケットボールを両立させていった。

I'mPOSSIBLE ①・② 1-2 「勇気」「強い意志」「インスピレーション」について考えてみよう！ (香西選手編)

**香西選手からのメッセージ**

映像を見よう！




国際パラリンピック委員会公認教材 8

【指導・声かけ例】

- ・このシートを見せた後に、〈映像資料②：香西選手からのメッセージ〉を見せる。  
※映像の最後に、香西選手から大切なメッセージがあるから、しっかり見るように促す。

I'mPOSSIBLE ①・② 1-2 「勇気」「強い意志」「インスピレーション」について考えてみよう！ (香西宏昭選手編)

こうざいひろあき  
香西宏昭選手からのメッセージ



一步踏み出せば  
世界が変わる！

国際パラリンピック委員会公認教材 9

【指導・声かけ例】

- ・映像メッセージの最後の「一步踏み出せば世界が変わる！」という言葉が、次の展開へのつなぎとなるため、しっかり押さえておきたい。
- ※最終的に香西選手は「勇気」「強い意志」を持って目標に向かって突き進んでいることを理解させる。

I'mPOSSIBLE ①・② 1-2 「勇気」「強い意志」「インスピレーション」について考えてみよう！ (香西宏昭選手編)

💡 T こうざい 香西選手の姿を見て  
自分を振り返ろう。①

自分にとって  
「勇気」「強い意志」を持って  
成しとげたい「新たな一步（目標）」  
とは何だろう？

国際パラリンピック委員会公認教材 10

【指導・声かけ例】

- ・これまで学習した香西選手の経験を踏まえて、今度は自分に置きかえて考えさせる。
- ⇒「香西選手の目標は、世界で認められる選手になることだったね。そのためにはいろいろなハードルがあったけれど、希望の大学に入って、勉強とバスケットボールを両立させてクリアしていったよ。では、きみたちにとって『勇気・強い意志を持って成しとげたい新たな一步（目標）』って何だろう？」
- ・「高校や大学受験で1つ上のレベルの学校に合格すること」などの学業に関する目標、「〇〇の職業に就くこと」などの将来の夢、または「部活の都道府県大会でベスト8に入る」など日常で取り組んでいることに関することなど、成し遂げたい「新たな一步」については、生徒自身が最も切実に考えられるように指導する。ただし、簡単に達成できる目標ではなく、香西選手のように、「勇気」「強い意志」を持たないと達成できない目標を設定できるように助言する。

I'mPOSSIBLE ①・② 1-2 「勇気」「強い意志」「インスピレーション」について考えてみよう！ (香西宏昭選手編)

💡 T こうざい 香西選手の姿を見て  
自分を振り返ろう。②

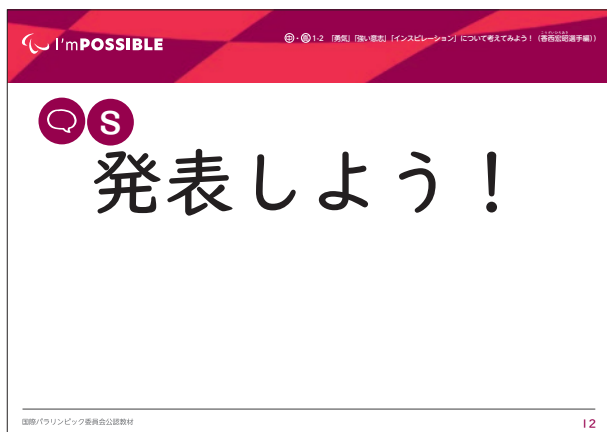
■ 自分の目標達成の前に立ちはだかる  
ハードルとは何だろう？

■ ハードルを越えるために、  
何をしたらよいだろう？

国際パラリンピック委員会公認教材 11

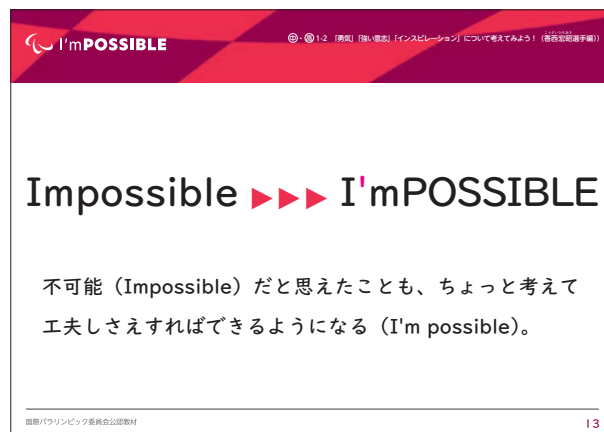
【指導・声かけ例】

- ・目標を達成するために、今まで実行してこなかったアプローチを考えさせる（具体的な行動で考えるようにする）。
  - ・ハードルを越えるために行うことについては、できるだけ具体的に言葉にするように助言する。
- 〈例①〉「毎日勉強をする」ではなく「苦手な英語を得意科目にするために、単語・イディオムを毎日10ずつ覚える」
- 〈例②〉「毎日、練習をする」ではなく、「日々の練習について効果的なメニューを考えて、顧問の先生に相談する」



【指導・声かけ例】

- ・数名を指名してクラスで発表させる。また、グループごとに発表者を1名選ばせて発表させるなど、工夫する。



【指導・声かけ例】

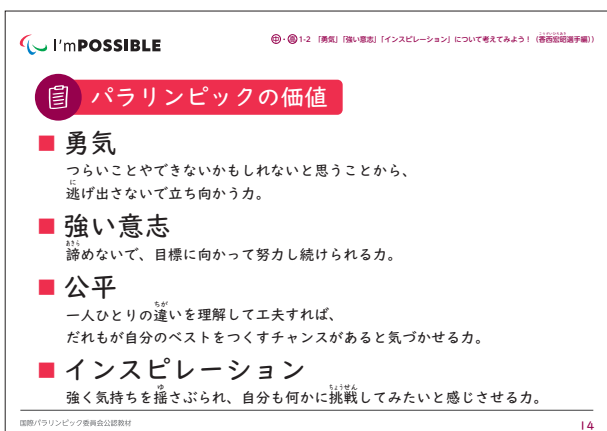
⇒「この教材の名称は『I'mPOSSIBLE』です。『Impossible』と比べて、どんなことに気付くかな？」

〈本教材「I'mPOSSIBLE」の基本的な考え〉

「I'mPOSSIBLE」には、「不可能（Impossible）だと思えたことも、ちょっと考えて工夫さえすればできるようになる（I'm possible）」という、パラリンピックの選手たちが体現するメッセージを込めてつくられた言葉。

※正しい英語表現では「It is possible for me.」。

映像資料④：I'mPOSSIBLE の由来 を見せてもよい。



【指導・声かけ例】

- ・パラリンピックの4つの価値を確認する。
- ※高校生には、右の「+アルファ情報」のような表現で紹介してもよい。
- ※「公平」については、1-4「公平」について考えてみよう！で学習する。

+アルファ情報

- 勇気：  
マイナスの感情に向き合い、乗り越えようと思う精神
- 強い意志：  
困難があっても諦めず限界を突破しようとする力
- 公平：  
多様性を認め、創意工夫をすれば、誰もが同じスタートラインに立てることを気づかせる力
- インスピレーション：  
人の心を揺さぶり、駆り立てる力